

2019年度

CUCライフステージ大学

＜千葉商科大学 履修証明プログラム＞

シラバス

CUC 千葉商科大学
Chiba University of Commerce

地域連携推進センター

< 目 次 >

講義時間割	P. 1
◆必修	
① 総合演習(必修ゼミ)	P. 2
◆第1期	
② 非営利組織論	P. 3
③ IT ツール仕事獲得講座.....	P. 5
④ 地域分析論(資源論)	P. 7
⑤ エリアマーケティング・経営学.....	P. 8
⑥ 高齢者に対する支援(介護保険制度).....	P. 10
⑦ 情報リテラシー.....	P. 12
◆第2期	
⑧ グラフィックデザイン基礎	P. 14
⑨ プロジェクトマネジメント.....	P. 16
⑩ クラウドソーシング活用講座	P. 17
⑪ 地域分析論(実習)	P. 19
◆第3期	
⑫ 子育て・家族サポート論	P. 20
⑬ ファシリテーション・コーディネーション講座.....	P. 21
⑭ アニメーション表現	P. 22

<講義時間割>

◆開講式、「①総合演習(必修ゼミ)」第1回 5月18日(土) 10時40分

「①総合演習(必修ゼミ)」第2回 5月25日(土) 9時

◆第1期 6月3日(月)~7月28日(日)

月曜日	火曜日	金曜日		土曜日	
6限	6限	6限		1限	2限
②非営利組織論	③ITツール仕事獲得講座	④地域分析論(資源論) ※1	⑤エリアマーケティング・経営学※1	⑥高齢者に対する支援(介護保険制度)	⑦情報リテラシ
榎戸敬介	志鎌真奈美	山田耕生	仁平京子	和田義人	小林直人

※1 金曜日6限は各4回を一週おきに実施(予定)

◆第2期 9月2日(月)~10月27日(日)

火曜日	土曜日		
6限	1限	2限	3限
⑧グラフィックデザイン基礎	⑨プロジェクトマネジメント	⑩クラウドソーシング活用講座	⑪地域分析論(実習) ※2
吉羽一之	熊野健志	熊野健志	小口広太

※2 フィールドワークを2日間(計4コマ分)、残りの授業は教室で実施(予定)

<授業時間帯>

1限 9:00~10:30

2限 10:40~12:10

3限 13:10~14:40

4限 14:50~16:20

5限 16:30~18:00

6限 19:00~20:30※

※大学時間割とは異なる

◆第3期 11月11日(月)~1月26日(日)

土曜日		
1限	2限	3限
⑫子育て・家族サポート論	⑬ファシリテーション・コーディネーション講座	⑭アニメーション表現
橋本由佳	影山貴大、朽木量	上田裕子

【注】上記時間割は変更する場合があります。

【注】都合により開講科目を変更する場合があります。

【科目名】

① 総合演習(必修ゼミ)

【担当者名】

朽木 量

【開講時期(予定)】

第1回 5月18日(土)10時40分、第2回 5月25日(土)9時

※第3回以降の総合演習(必修ゼミ)は各期の間及び第3期終了後に行ないます。

【講義内容】

受講の動機・目的を明らかにすると共に、内省を深めることで、最終プレゼンテーションに向けたプレゼンテーションスキルの獲得、内容のブラッシュアップを行う。

【講義の到達目標】

「千葉商科大学認定 地域コーディネーター」にふさわしい地域つながり力、地域分析力、ファシリテーション能力を身につけ、今後の活躍に向けて自律的に目的意識を高めることが出来るようになることを目標とする。

【準備学習等の指示】

授業はU理論に基づき展開するので、必要に応じ以下の書籍を下読みしておくが良い。

オトターシャーマー 2017『U理論：過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術 第2版』英治出版

ただし、上記はやや難しいので、以下の書籍のうちいずれかでも良い。

中土井僚2014『U理論入門：人と組織の問題を劇的に解決する』PHPエディターズ

中土井僚2015『マンガでやさしくわかるU理論』日本能率協会マネジメントセンター

【授業計画】

第1回 講座概要・講師の紹介 受講生自己紹介、各自テーマの検討

第2回 LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を用いた自己省察のファシリテーション

第3回 参考文献の効率の良い探し方

第4回 発表の仕方とポイント

第5回 各自テーマのブラッシュアップ1

第6回 各自テーマのブラッシュアップ2

第7回 発表に向けた準備と講評1

第8回 発表に向けた準備と講評2

【評価方法】全8回のうち、5回以上出席し、課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

初回・2回授業は連続して実施し、スキルビルディングを行うので、原則欠席しないこと。

【参考文献】準備学習の項参照

【科目名】

② 非営利組織論

【担当者名】

榎戸 敬介

【開講時期】

第1期 月曜日6限

【講義内容】

非営利組織は、公共セクター、民間セクターと共に現代の市民生活を支えるために不可欠な第3のセクターとして認知されている。本講義では、都市・地域の再生や持続可能性の観点を中心に、理論と実践の両面から非営利組織について学ぶ。本講義は、履修者の積極的な参加を基本とし、期末には非営利組織の企画プレゼンテーションを実施する予定である。

【講義の到達目標】

- ・非営利組織についての基礎的理論を修得する。
- ・非営利組織の現状や課題を説明できるようになる。
- ・非営利組織を企画する力を修得する。

【準備学習等の指示】

特になし

【授業計画】

第1回 非営利組織の役割

- ・非営利組織の定義を確認する
- ・非営利組織の特性を理解する
- ・近年の展開や問題について概観する

第2回 非営利組織の機能

- ・非営利組織の様々な機能について理解する。
- ・事例を通して機能を理解する。

第3回 非営利組織と市場、政府、ボランティア

- ・市場、政府、ボランティアの失敗について理解する
- ・非営利組織の可能性と限界について理解する

第4回 非営利組織の制度

- ・制度の変遷を概観する
- ・特定非営利活動促進法（NPO法）について理解する
- ・非営利法人制度の課題を理解する

第5回 非営利組織の形態

- ・非営利組織の可能性と限界について理解する
- ・事業型非営利組織について理解する
- ・コミュニティ・ビジネスを理解する

第6回 他セクターとの関わり

- ・非営利組織と行政との関わりを理解する
- ・非営利組織と企業との関わりを理解する

第7回 非営利組織の最新事例

- ・最新の活動について理解する
- ・新たな問題について理解する

第8回 企画発表

- ・非営利組織をつくってみる
- ・実現に向けての課題をさぐる

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

特になし

【参考文献】

- ・クラッチフィールド、グラント著/服部訳『世界を変える偉大な NPO の条件』(2012)ダイヤモンド社
 - ・澤村、田中、黒田、西出『はじめての NPO 論』(2017) 有斐閣
 - ・田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』(2015) 有斐閣
- ほか必要に応じて適宜指示・配布する。

【科目名】

③ IT ツール仕事獲得講座

【担当者名】

志鎌 真奈美

【開講時期】

第1期 火曜日6限

【講義内容】

インターネットやデジタルツールの普及に伴い、誰でも気軽に情報発信ができる環境が整って来た。そのような時代の中で、IT ツールを使えない人材は取り残される可能性がある。この講座を通して、インターネットを活用した情報発信力を向上させるとともに、IT ツールをフル活用した仕事の獲得方法を身に付け、情報化社会においてイニシアティブを取れる人材を育成する。

【講義の到達目標】

IT ツールを使って仕事を獲得するための基礎知識を身につけることを目標とする。
自身が決めたテーマに沿ってホームページを作成できる。(3 ページ程度)

【準備学習等の指示】

- ・パソコンの基本操作ができること(Windows8 以上)
(起動、終了、フォルダ作成、名称変更、ソフトの起動、文字打ち、簡単な文書作成 等)
- ・インターネットの基本操作ができること(Windows8 以上)
(ブラウザの起動、メールの送受信、Yahoo! JAPAN や Google での検索、ネットショップでの買い物等)

【授業計画】

第1回 インターネットを使った情報発信の有益性

- ・インターネットの歴史や概要
- ・情報の受け手から発信者へ変わると起こりうること
- ・ネットで情報発信するメリットとデメリット

第2回 ネットを利用した仕事獲得とは？種類と手法

- ・インターネットを利用した仕事獲得の流れ
- ・受注しやすい仕事の種類と手法

第3回 ホームページ、ブログ、SNS 等、各ツールの特徴と違い

- ・周辺にある各ウェブツールの種類と違い
- ・活用方法とメリット・デメリット

第4回 ホームページ作成の準備をしよう(情報設計)

・ホームページ作成前に、必ず準備をしておきたいこと

・情報設計の重要性と設計方法

第5回 Jimdo でホームページを作ってみよう(1) ※実習形式

・Jimdo というツールを利用したホームページ作成方法

第6回 Jimdo でホームページを作ってみよう(2) ※実習形式

・Jimdo というツールを利用したホームページ作成方法

第7回 ネットを使った集客と認知の拡大について ※実習形式

・ホームページを作った後の流れ

・集客方法、認知の拡大についての概要、具体的な手法

・仕事の種類ごとの収益アップ方法

・効果的な仕事獲得方法

第8回 IT 総合力アップのためにやっておきたいこと

・制作ホームページの発表

・インターネットを「面」でとらえる視点

・ウェブでの発信力向上と継続するための取り組み

・8 回分のまとめ

【評価方法】

全 8 回のうち 5 回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

パソコンを使用する回があるので、「準備学習等の指示」に記載した条件を満たしている必要があります。

【参考文献】

講義内で紹介します。

【科目名】

④ 地域分析論(資源論)

【担当者名】

山田 耕生

【開講時期】

第1期 金曜日6限(※エリアマーケティング・経営学と一週おきに授業を行う)

【講義内容】

地域を活性化させていくためには、地域の現状を的確かつ客観的に把握することが前提となります。本講義では、様々な統計・データ、地図や資料、文献を分析しながら地域の特徴や課題、ニーズなどを明らかにしていきます。つまり、地域を「読み解く」力を養います。

【講義の到達目標】

様々な統計・データや資料を分析し、多面的な視点から地域の特徴を分析できるようになること。

【準備学習等の指示】

毎回の授業前に市川市および周辺地域に関する統計・データや資料等を配布しますので、あらかじめ目を通し、どんなことが分かるか考えておいてください(詳しくは授業で指示します)。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション/地域分析の必要性と方法

第2回 周辺地域を分析し、市川市の特徴を把握し、地域資源を発見する

第3回 統計・データを分析し、市川市の特徴を把握し、地域資源を発見する

第4回 歴史・文化を分析し、市川市の特徴を把握し、地域資源を発見する

【評価方法】

全4回のうち、3回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

日ごろから市川市の特徴や地域資源の発見に関心を持って生活してください。

【参考文献】

講義内で指示します。

【科目名】

⑤ エリアマーケティング・経営学

【担当者名】

仁平 京子

【開講時期】

第1期 金曜日6限(※地域分析論(資源論)と一週おきに授業を行う)

【講義内容】

近年、各々の地域や商圈の持つ経済環境や社会環境、商業環境、生活環境、気候、風土などの多様な市場特性に合わせて、地域や商圈の競争優位性と顧客満足度の向上を目指す「エリアマーケティング（地域マーケティング）」を志向する重要性が高まっています。

講義では、「エリアマーケティングとは、何か？」という問いから出発して、マーケティングや経営学の基本的な考え方について学習します。エリアマーケティングとは、企業のエリア（地域）戦略、地域間のマーケティング上の違いを戦略的な視点から捉えるものです。このようなエリアマーケティングでは、個別の地域の情報に基づきながら、ターゲットとなる地域と市場を明確化して、個別の地域市場の特性に合わせて集中的なマーケティング活動を行うため、「地域密着型マーケティング」とも呼ばれています。

そして、講義では、地域活性化や地方活性化に向けてマーケティング活動を行う自治体や非営利組織に向けて、地域やまちを「商品・サービス」としてアピールする手法について、成功例や失敗例などのケース・スタディ（事例研究）を取り上げていきます。

【講義の到達目標】

- ・ 履修者が、マーケティングや経営学の視点から、自治体や非営利組織のエリアマーケティングの抱える課題と解決策を考察する力を身につける。

【準備学習等の指示】

講義に関連する参考文献の教科書や新聞記事、ニュースなどに目を通して、内容を事前に確認しておいてください。

【授業計画】

第1回 エリアマーケティングとは？：マーケティングの概念／マーケティング・コンセプトの変遷／マーケティングの4P(Product: 製品、Price: 価格、Place: 流通チャネル、Promotion: プロモーション)／エリアマーケティングの概念／ケース・スタディ

第2回 地域や商圈のマーケティング環境と経営戦略：戦略的マーケティングの概念／3C(Customer: 顧客、Competition: 競争相手、Corporation: 企業)分析／SWOT(Strengths: 強み、Weaknesses: 弱み、Opportunities: 機会、Threats:

脅威) 分析/ケース・スタディ

第3回 エリアマーケティングの STP (Segmentation : セグメンテーション、Targeting : ターゲティング、Positioning : ポジショニング : STP 戦略、STP マーケティング) : 市場細分化戦略と製品差別化戦略/マス・マーケティングからターゲット・マーケティング、ワン・トゥ・ワン・マーケティングへの変遷/ケース・スタディ

第4回 地域ブランドの開発 : 地域ブランドや地域資源のブランド化/地域産業の活性化/特産品のマーケティング/ケース・スタディ

【評価方法】

- ・全4回のうち、3回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。
- ・講義では、講義内のレポート提出や個人発表、グループ・ディスカッションなどの講義貢献度を加味して総合的に評価します。

【履修上の注意】

- ・基本的には、講義形式を中心としますが、個人発表やグループ・ディスカッションなどの双方向型学習を行う場合もあります。
- ・パワーポイントを使用して授業を進行するため、遅刻をしないように留意してください。

【参考文献】

岡田豊『地域活性化ビジネス—街おこしに企業の視点を活かそう』、東洋経済新報社、2013年。

佐々木茂・石川和男・石原慎士編著『新版 地域マーケティングの核心』、同友館、2016年。

P.コトラー著『地域のマーケティング』、東洋経済新報社、1996年。

古川一郎著『地域活性化のマーケティング』、有斐閣、2011年。

和田充夫編著『地域ブランドマネジメント』、有斐閣、2009年。

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦編著『マーケティング戦略(第5版)』、有斐閣アルマ、2016年。

和田充夫・日本マーケティング協会編『マーケティング用語辞典』、日本経済新聞社、2005年。

【科目名】

⑥ 高齢者に対する支援(介護保険制度)

【担当者名】

和田 義人

【開講時期】

第1期 土曜日1限

【講義内容】

高齢者福祉の実践においては、高齢者の尊厳を支えるという視点が重要です。この講義では社会的存在としての高齢者の理解、高齢者の身体的、精神的理解に向けて、最低限知っておくべき知識を学習します。次に高齢社会の特性やニーズにふれ、現在の高齢者福祉制度の包括的な理解と、介護保険制度についてはその基本的な枠組みと制度の仕組みを整理した上で、介護保険制度による個別のサービス、さらに今後の課題となっている混合介護(選択介護)、保険外サービス、共生型ケアについても、具体的な事例を通して学習します。

本講義については、介護・生活支援サービスに関わる専門職の役割と地域住民、自治体との連携を理解した上で、こうした意義と背景をもつ居宅サービスから施設サービス、新たにスタートした「地域包括ケアシステム」及び地域支援事業の見通し、そして介護予防給付と市区町村が主体となる総合事業の今後の課題についても学習します。

【講義の到達目標】

本講義の到達目標は、まずは対象となる“高齢者”の理解です。次にその高齢者および高齢社会の特性やニーズに触れ、現在の高齢者保健福祉制度を包括的に理解した上で、その中心となる介護保険制度の基本的な枠組みと制度の仕組みを具体的な事例をベースに理解し、2025年問題を筆頭に近未来の高齢者が当面する課題を洞察できるようにします。

【準備学習等の指示】

この講義の基底概念は「高齢者の本質的理解」です。まずは地域、地元を知ることが重要であり、その意味で地元市川市の高齢者福祉計画、介護保険事業計画に目を通しておいて頂けると有難いです。

【授業計画】

- 第1回 高齢者の特性(高齢者の社会的理解、高齢者の身体的・精神的理解)
- 第2回 少子高齢社会と高齢者(地域包括ケアと共生型ケアの理解)
- 第3回 高齢者保健福祉の発展と関係法規
- 第4回 介護保険制度の基本的枠組み(全体像と混合介護、保険外サービスを含めた最近の動向)
- 第5回 介護保険制度の仕組み①(制度の仕組み・サービスプロセス)
- 第6回 介護保険制度の仕組み②(地域支援事業、事業計画、質の確保)
- 第7回 介護保険サービスの体系①(専門職の役割と実態)

第8回 介護保険サービスの体系②(居宅・施設、地域包括ケアシステム、総合事業)

【評価方法】

全8回のうち、5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

“課題認識”(問題意識)が大前提となります。社会環境の変化(制度やサービスの変化)に対して市民目線の感性を大事にしながら履修してください。

【参考文献】

新・社会福祉士養成講座 No.13 高齢者に対する支援と介護保険制度 第3版
編集 社会福祉士養成講座編集委員会 発行所 中央法規出版株式会社

「地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略」—integrated care の理論とその応用—

著者 筒井孝子 発行所 中央法規出版株式会社

「地域包括ケアと生活保障の再編」—新しい「支え合い」システムを創る—

編著者 宮本太郎 発行所 株式会社 明石書店

「生活保障」—排除しない社会へ—

著者 宮本太郎 発行所 株式会社 岩波書店

「在宅介護」—「自分で選ぶ」視点から—

著者 結城康博 発行所 株式会社 岩波書店

「共生保障」—〈支え合い〉の戦略—

著者 宮本太郎 発行所 株式会社 岩波書店

【科目名】

⑦ 情報リテラシー

【担当者名】

小林 直人

【開講時期】

第1期 土曜日2限

【講義内容】

1995年、マイクロソフト社のWindows95発売をきっかけに、その後10年ほどの短い期間でコンピュータやインターネットの利用環境が急速に普及した。それ以前には考えられなかったほどの情報が溢れ、様々な形で活用されている一方で、そのリテラシー(活用能力)教育については、現在においても十分になされているとは言い難い状況である。

本講座では、コンピュータや各種ソフトウェアの基本的な操作を習得するほか、情報通信技術の基礎、および昨今の情報通信技術などについて知り、広く普遍的な知識を身につけることで、情報リテラシーを正しく身につけることを目的とする。

【講義の到達目標】

- 基本的な情報リテラシーの習得
- 昨今の情報通信技術に関する知識の修得

【準備学習等の指示】

パソコン操作に関するスキルは必要としませんが、マウスやキーボードの基本的な操作方法は事前に確認しておくとう受講しやすくなります

【授業計画】

第1回 ガイダンス・コンピュータの基本

- ・【講義】コンピュータとOSについて
- ・【演習】Windowsの基本操作

第2回 インターネットとウェブブラウザ

- ・【講義】インターネットとワールドワイドウェブ
- ・【演習】ウェブを活用した情報収集方法

第3回 プレゼンテーション資料の作成技法

- ・【演習】Microsoft PowerPointの基本操作

第4回 表計算ソフトを利用したデータ活用

- ・【演習】Microsoft Excelの基本操作と活用方法

第5回～第8回 昨今の情報通信技術・総合演習

- ・【講義】ビッグデータ分析、人工知能関連技術、仮想通貨(暗号資産、ブロックチェーン)

などの情報通信技術についての概要

- ・ 【演習】 各受講生の進捗にあわせて課題を設定します

【評価方法】

全 8 回のうち 5 回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

演習を伴う講座であるため、なるべく休まずに参加するようにしてください。やむを得ず欠席した場合には、授業時間内に可能な範囲でフォローを行います。

【参考文献】

講義時に説明します。

【科目名】

⑧ グラフィックデザイン基礎

【担当者名】

吉羽 一之

【開講時期】

第2期 火曜日6限

【講義内容】

グラフィックデザインの基礎知識について、演習を交えた講義をふまえ、情報の整理や見せ方を考察し、実践的な課題に取り組む。授業では Adobe Illustrator と Adobe Photoshop を使用するが、本講義は操作修得ではなく、情報をデザインすることによって重点を置く。

【講義の到達目標】

情報の見せ方とデザインワークの基礎的な知識を理解し、グラフィックデザインにおける実践的な技法を体得する。

【準備学習等の指示】

コンピュータの基本的な知識を持ち、操作に慣れていること。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション〈使用アプリケーションについて〉、講義〈情報の整理と見せ方〉

第2回 デザイン演習—情報整理について

第3回 デザイン演習—レイアウトについて

第4回 デザイン演習—文字について

第5回 デザイン演習—図版について

第6回 課題説明、課題フォーマット(カラーモード・トンボ)作成

第7回 課題制作〈アイデアスケッチチェック・レイアウト〉

第8回 課題制作〈最終チェック・仕上げ・裁断〉、作品講評会

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、課題を、演習や講義への理解が示される完成度を持って提出すること。

【履修上の注意】

演習・課題データを管理できる USB メモリもしくは外付ハードディスクを用意すること。
(詳細は初回授業で説明)

【参考文献】

『デザインを学ぶ1 グラフィックデザイン基礎』青木直子、他
エムディエヌコーポレーション 2013年

『デザインを学ぶ 2 色彩と配色セオリー』石田恭嗣
エムディエヌコーポレーション 2013 年

『デザインを学ぶ 3 文字とタイポグラフィ』板谷成雄
エムディエヌコーポレーション 2013 年

【科目名】

⑨ プロジェクトマネジメント

【担当者名】

熊野 健志

【開講時期】

第2期 土曜日1限

【講義内容】

「プロジェクト」は、日常生活でもよく聞かれる言葉ではないかと思います。プロジェクトマネジメントは、NASA(米航空宇宙局)のアポロ計画に端を発します。NASAはプロジェクトについて「相互に関連するタスクから構成され、多くの組織が参画して実施される3年以下程度の期間の活動」と定義しています。国際的な建設プロジェクトや巨大システムの開発でも不可欠なプロジェクトマネジメントですが、今回の講座では、初めての方にもプロジェクトマネジメントの考え方を、日常生活や市民活動にも役立てていただくことを目標とします。

【講義の到達目標】

コミュニティビジネス、あるいは日常生活の場面において、プロジェクトマネジメントの考え方が活用できるようになる。

【準備学習等の指示】

これまで三人以上で、協働して、締め切りがある仕事をした経験を2つ以上お話いただけるように準備をしておいてください。(口頭発表で結構です)

【授業計画】

第1講 プロジェクトとは何か。

第2講 演習1 エグゼクティブサマリからWBS作成までを体験します。

第3講 プロジェクト・リソース

第4講 演習2 プロジェクトのリソース割り付けを行います。

第5講 プロジェクト・プロセス管理

第6講 演習3 プロジェクトの運営管理を仮想的に実施します。

第7講 リスク管理の考え方

第8講 まとめと成果発表(講評)

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、演習にて学習効果を確認した受講者に履修を認定します。

【履修上の注意】

演習には積極的なご参加をお願いします。

【参考文献】

受講生の到達度に合わせて適宜ご紹介します。

【科目名】

⑩ クラウドソーシング活用講座

【担当者名】

熊野 健志

【開講時期】

第2期 土曜日2限

【講義内容】

「働き方改革」や「副業」が、国を挙げて議論される時代となりました。日々の暮らしの中ではなかなか気づきにくいことですが、情報通信技術の進歩にともなって、私たちの「仕事」のあり方も大きく変化しています。その変化を、クラウドソーシングの習得、実践を通じて感じていただきたいと思います。特にクラウドソーシングの「発注」が、ワークスタイル変革の要であることを体感し、これからのネットワーク社会において主役になっていくテレマネージャの重要性について理解を深めていただきます。

【講義の到達目標】

クラウドソーシングの発注を体験し、テレマネージャとしての心得を身につける。

【準備学習等の指示】

クラウドワークスへの登録(講座内で指示する)、数百円～数千円程度の実習実費要(クレジットカードがあることが望ましい)

【授業計画】

第1講 クラウドソーシングの概要

ネットワークを通じて仕事を発注するクラウドソーシングについて、その仕組みとこれからの社会に与える影響について紹介する。

第2講 クラウドソーシングの登録と発注(実習Ⅰ)

実際にクラウドソーシングに登録して、発注するまでを体験する。

第3講 アポロ13号に見るテレワーク活用の要諦

1970年に発生したアポロ13号の事故を検証しながら、ネットワークを使って仕事をする意義を考察する。

第4講 クラウドソーシングの発注(実習Ⅱ)

第2講で発注した内容を確認しながら、再度、発注を体験する。

第5講 炭鉱業の盛衰に見る労働市場

現在、我々が常識だと思っている労働制度について振り返りながら、ワークスタイル変革をどのように考えるべきかを考察する。

第6講 クラウドソーシングの発注・検収(実習Ⅲ)

第2講、第4講の実習を振り返りながら、検収までを体験する。

第7講 テレマネージャ心得帖の紹介

日本テレワーク学会で議論されている「テレマネージャ心得帖」を紹介しながらネットワーク上で発注する技術について概観する。

第8講 成果発表・未来のワークスタイル変革のディスカッション

これまでの内容を踏まえ、各自が体得した「ワークスタイル変革」について発表する。

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

インターネット閲覧、メール送受信程度のパソコンスキルを有すること。
実習の進捗によっては授業計画を変更する場合があります。

【参考文献】

「テレワークが未来を創る」日本テレワーク学会 インプレスR&D ほか
必要に応じて適宜指示・配付する。

【科目名】

⑪ 地域分析論(実習)

【担当者名】

小口 広太

【開講時期】

第2期 土曜日3限 ※フィールドワークを2日間(計4コマ分)、残りの授業は教室で実施(予定)

【講義内容】

本講義では、地域が抱える課題に取り組む実践者のもとを訪ね、コミュニティ・ビジネスの役割について学びます。事例として都市農業を取り上げ、フィールドワークでの聞き取りをもとに農業経営者の事業内容を分析するとともに、都市農業のこれからについて検討します。

【講義の到達目標】

地域再生に向けたコミュニティ・ビジネスの手法を習得し、事業計画を策定、改善する際の視点を獲得します。また、実際に実践者の話を聞き、その姿に触れることでコミュニティ・ビジネスの担い手としての姿勢と心構えを獲得します。

【準備学習等の指示】

エリアマーケティング・経営学、地域分析論(資源論)で学んだ内容を前提に講義を進めます。復習をした上で受講してください。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス:都市農業の動向、フィールドワーク先の紹介
- 第2回～第3回 フィールドワーク①:市川市の農家
- 第4回 事例分析
- 第5回～第6回 フィールドワーク②:松戸市の農家
- 第7回 事例分析
- 第8回 まとめ:都市農業のこれから

【評価方法】

全8回のうち、5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

フィールドワーク時の交通費は、各自負担になります。

【参考文献】

特になし。

【科目名】

⑫ 子育て・家族サポート論

【担当者名】

橋本 由佳

【開講時期】

第3期 土曜日1限

【講義内容】

3. 11東日本大震災から、8年目を迎えようとしています。この大きな出来事は、多くの人の価値観をゆさぶり、「生きる」ということを考えさせ続けています。リアルな「つながり」が希薄になってきた社会の中で、「絆」が強調されました。誰も一人でこの世に存在したわけではありません。しかし、その「絆」が自分自身や家族、他者との関係性を縛りストレスを感じている人もいます。「家族」について体系的に学びながら、私たちはこれからどのような「家族」をデザインしていくのか、みなさんと考えていきたいと思えます。

【講義の到達目標】

受講生の方が人生設計を一層充実したものにする為に、自分の中の棚卸を進めることを目標とする。

【準備学習等の指示】

ニュースや新聞等から、家族に関わる関連記事について情報収集してください。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション:授業概要の説明
- 第2回 日本の家族の歴史と世界の家族観
- 第3回 日本の法制度からみる家族のかたち
- 第4回 社会的養護の実態(社会的養育新ビジョンについて)
- 第5回 市川市にみる家族子育て資源の発見
- 第6回 自分史を通してみる「家族・子育て」
- 第7回 情報社会とこれからの「家族」
- 第8回 演習:あなたの考える家族デザイン

【評価方法】

8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定する。

【履修上の注意】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【科目名】

⑬ ファシリテーション・コーディネーション講座

【担当者名】

影山 貴大、朽木 量

【開講時期】

第3期 土曜日2限

【講義内容】

地域の現場や会議の場で生きるファシリテーション・コーディネーションをワークショップを通して学びます。

【講義の到達目標】

実際にファシリテーション・コーディネーションを活用した場づくりの企画(案)を出していただきます。

【準備学習等の指示】

余力があれば事前に各自治体ごとに実施されている対話の場(意見交換などの場)等に参加し、地域の場づくりの雰囲気を体感していただきたい。

【授業計画】

- 第1回「ファシリテーション・コーディネーションの概要」
- 第2回「人に信用される傾聴力」
- 第3回「人に気づきを与える質問力」
- 第4回「良い場の作り方」
- 第5回「場づくりのためのツール」
- 第6回「人と人のつなぎ方、人のネットワークの作り方」
- 第7回「場づくりの企画作り」
- 第8回「企画案の発表とフィードバック」

【評価方法】

全8回のうち、5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

毎回参加型のワークショップが授業に組み込まれていますので、積極的に授業にご参加いただける方。第7回、第8回は2週にわたり連続した内容なので、極力欠席せずに続けて参加ください。(どうしても都合のつかない方は要相談)

【参考文献】

授業にてご紹介します。

【科目名】

⑭ アニメーション表現

【担当者名】

上田 裕子

【開講時期】

第3期 土曜日3限

【講義内容】

Adobe After Effects によるアニメーション制作。

【講義の到達目標】

自主アニメーションを mp4 形式(PC 上で再生可能)で完成させる。

【準備学習等の指示】

ショートアニメーションの題材やキャラクターまたは使いたい写真等、集めておく。
手書きの元絵の読み込みも可能。

(Adobe Illustrator や Adobe Photoshop 等、絵を描くソフトが使えるとより良し。)

絵が描けなくても写真や図形でアニメーション作成可能。

【授業計画】

第1回 アニメーションの考え方・作り方

Adobe After Effects にて

「読み込み・編集・書き出し」一連の手順紹介

第2回 「パペットアニメ」「図形によるアニメーション」作成

第3回 「3D 表現」「エフェクト」の使い方

第4回 「文字のプリセット」の使い方(クリスマス or 年賀の為のアニメ作成)

第5回 「時間・反転」の使い方(クリスマス or 年賀の為のアニメ作成)

第6回 自主アニメーション作品制作(元絵の読み込み～編集～書き出し)

第7回 自主アニメーション作品制作(ショートアニメーション制作)

第8回 自主アニメーション完成・作品発表(コマアニメ・コンバータ HP 紹介)

【評価方法】

全 8 回のうち 5 回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定する。

【履修上の注意】

なし。

【参考文献】

なし。